



「CS教師の資質⑤ 品格」

国立キリスト教会教育担当牧師 本澤 敬子

CS教師のもつべき資質として「品格」ということばを聞くと、たじろぐ方もおられるかもしれません。教師が持つべき品格とは、キリストにふさわしい品格です。キリストにある品格によって、行動と言葉を通して子どもたちに模範を示すことは、教えること以上に大きなメッセージを伝えます。

1. 品格—行動によるもの

パウロはテトスに「すべての点で自分自身が良いわざの模範とな」（テトス2章7節）るよう勧めました。それは、私たちの信仰生活、社会生活、個人生活のいずれにおいてもという意味です。もちろん、私たちは様々な弱さを抱えています。完璧でなければ教師になれないのであれば、だれも教師となることはできません。しかし、あくまで追求していくこと、聖霊が私たちを作り変えてくださることを信じることは、非常に大切です。その姿勢自体が子どもたちに信仰者としての模範を示すことでしょう。

また、神様と福音に対する熱心さも子どもたちに大きな影響を与えます。子どもたちは、語られた言葉よりも、教師の姿勢に教えられ、ビジョンを与えられることが多いのです。

細かいことでは、CSでみことばを語る時の服装、無断欠席、遅刻、礼拝や賛美するときの態度なども子どもたちに影響を与えます。自分は見られていないと思っても、意外に子どもたちはよく見ているものです。なぜなら、子どもたちにとって教師は親以外のとても身近な、そして尊敬したいクリスチャンであるからです。

2. 品格—言葉によるもの

聖書は度々、私たちが舌によって罪を犯す危険をはらんでいることを警告しています。ヤコブの手紙は、私たち教師が「賛美とのろい」を同じ口から出してはならないと言っています（3章1—12節）。同時に舌を制御するむずかしさも語っています。

舌を制御しない結果は、私たち自身の滅びを招くだけでなく、私たちが導きたいと願っている子どもたちにつまずきを与えます。もっとも大きな影響を与えるのは、他者への批判でしょう。たとえ内容が正しくても、批判や愛のない発言を子どもの前で

することは控えましょう。キリストとその福音にふさわしいことばを話すことができるようにいつも祈りましょう。また、私たちの内面が口にのぼることが多いですから、表面的に取り繕うのではなく、私たちの内面がキリストにふさわしいものになるように聖霊の助けを祈ることも必要です。

3. 品格一言行一致

言葉遣いがいくら丁寧であっても、語る内容がすばらしくても、言行が一致しないことがあります。子どもたちに教えていながら、自分はそのようになることを求めない姿勢はその最たるものです。

また「黙っていればわからないよ」、「○○には黙っておこうね」などという裏表のある言動を勧めるのも問題です。子どもたちとの関係が近くなればなるほど、なにげなく口から出てしまうことも多いのではないのでしょうか。子ども同士の関係に亀裂がはいったり、逆に自分にもそのようにされているのではないかと、不安にさせたりします。自分のような者の言動がそれほど大きな影響を与えるわけではない、と考えるのは間違いです。教師は子どもたちにとって大きな存在であることを忘れないようにしましょう。

効果的に福音を伝えるためのもっとも有効な指導法は、雄弁さでも、豊富な神学的知識でもなく、キリストにふさわしく生きる人格なのです。

ディスカッションガイド

①他のクリスチャンから信仰生活について影響を受けたことがありますか。それはどのようなことでしょうか。

②あなたは子どもたちに「実際」どのような影響を与えているのでしょうか。互いに話し合ってみましょう。

③不適切なものは、神様に変えていただけるよう聖霊の助けを互いに祈りましょう。